23　次の文を読んで、後の問に答えよ。　　　　〈京都大〉二〇二二年度出題

　現実は残酷です。今日の若い世代に、古典芸術についてたずねてみてごらんなさい。

　＊コーリンとか、タンニュー、トーハク、なんて言ったら、新薬の名前かなんかと勘ちがいすること、うけあい。そうしてダ・ヴィンチやミケランジェロならご存じだということになると、（１）どっちがこれからの世代に受けつがれる伝統だか分からなくなってきます。

　さらに一例。――やや古い話ですが、法隆寺の失火で、壁画を焼失したのは昭和二十四年のことです。この年、某新聞社の十大ニュースの世論調査では、第一位が＊古橋の世界記録、二位が湯川秀樹のノーベル賞、以下、＊事件、事件などの後に、あれだけさわがれた法隆寺の壁画焼失という、わが国文化史上の痛恨事は、はるかしっぽのほうの第九位に、やっとすべりこんでいた。これは有名な事実です。（法隆寺は火災によってかえってポピュラーになりました。以前には、＊大仏殿の年間のあがりが十とすると、法隆寺は一、古美術の名作をゆたかに持っている寺でも、薬師寺とか唐招提寺などになると、〇・一という比例だったと聞きました。それが金堂が焼け、壁画が見られなくなった、と聞いたとたん、法隆寺の見物人が急に四倍にふえたということです。）

　伝統主義者たちの口ぶりは目に見えるようです。「俗物どもは」――「近頃の若いやつらは」――「現代の」――などと時代を呪い、教養の低下を慨嘆するでしょう。

　だが嘆いたって、はじまらないのです。今さら焼けてしまったことを嘆いたり、それをみんなが嘆かないってことをまた嘆いたりするよりも、もっと緊急で、本質的な問題があるはずです。

　（２）自分が法隆寺になればよいのです。

　失われたものが大きいなら、ならばこそ、それを十分に穴埋めすることはもちろん、その悔いと空虚を逆の力に作用させて、それよりもっとすぐれたものを作る。そう決意すればなんでもない。そしてそれを伝統におしあげたらよいのです。

　そのようななにこそ、伝統継承の直流があるのです。むかしの夢によりかかったり、くよくよすることは、現在を侮蔑し、おのれを貧困化することにしかならない。

　私は嘆かない。どころか、むしろけっこうだと思うのです。このほうがいい。今までの登録商標つきの伝統はもうたくさんだし、だれだって面倒くさくて、そっぽを向くにきまっています。戦争と敗北によって、あきらかな断絶がおこなわれ、いい気な伝統主義にピシリと終止符が打たれたとしたら、一時的な空白、教養の低下なんぞ、お安いご用です。

　それはこれから盛りあがってくる世代に、とらわれない新しい目で伝統を直視するチャンスをあたえる。そうさせなければなりません。私がこの、『日本の伝統』を書く意味もそこにあるのです。つまり、だれでもがおそれていまだにそっとしておく、＊ペダンティックなヴェールをひっぱがし、みんなの目の前に突きつけ、それを現代人全体の問題にしようと考えるからです。

　先日、をおとずれたときのこと、石庭を眺めていますと、ドヤドヤと数名の人がはいってきました。＊方丈の縁に立つなり、

　「イシダ、イシダ」

　と大きな声で言うのです。そのとっぴょうしのなさ。＊むきつけな口ぶり。さすがの私もあっけにとられました。

　彼らは縁を歩きまわりながら、

　「イシだけだ」

　「なんだ、タカイ」

　なるほど、わざわざ車代をはらって、こんな京都のはずれまでやって来て、ただの石がころがしてあるだけだったとしたら、高いにちがいない。

　シンとはりつめ、凝固した名園の空気が、この単純素朴な価値判断でバラバラにほどけてしまった。私もほがらかな笑いが腹の底からこみあげてきました。

　私自身もかつて大きな期待をもって、はじめてこの庭を見にいって、がっかりしたことがあります。ヘンに観念的なポーズが鼻について、期待した芸術のきびしさが見られなかった。

　だがこのあいだから、日本のまちがった伝統意識をくつがえすために、いろいろの古典を見あるき、中世の庭園をもしばしばおとずれているうちに、どうも、神妙に石を凝視しすぎるくせがついたらしい。用心していながら、逆に、うっかり敵の手にのりかかっていたんじゃないか。（３）どうもアブナイ。

　『裸の王様』という物語をご存じでしょう。あの中で、「なんだ、王様はハダカで歩いてらぁ」と叫んだ子どもの透明な目。あれをうしなったらたいへんです。

　石はただの石であるというバカバカしいこと。だがそのまったく即物的な再発見によって、権威やものものしい伝統的価値をたたきわった。そこに近代という空前の人間文化の伝統がはじまったこともたしかです。

　なんだ、イシダ、と言った彼らは文化的に根こぎにされてしまった人間のしさと、みじめさを露呈しているかもしれません。が、そのくらい平気で、むぞうさな気分でぶつかって、しかもなお、もし打ってくるものがあるとしたら、ビリビリつたわってくるとしたら、これは本ものだ。（４）それこそ芸術の力であり、伝統の本質なのです。

　戦前、私がフランスから帰ってきたばかりのときでした。＊小林秀雄に呼ばれて、自慢ののコレクションを見せられたことがあります。まず奇妙な、どす黒いを三つ前に出され、さて、こまった。なにか言わなきゃならない。かつて骨董なんかに興味をもったこともないし、もとうと思ったこともない。徹底的に無知なのです。だが見ていると、一つだけがピンときた。

　「これが一等いい」

　とたんに相手は「やあ」と声をあげました。

　「それは日本に三つしかないヘンコ（骨董としてたいへん尊重される古代朝鮮の水筒型の焼きもの）の逸品の一つなんだ。今まで分かったような顔をしたのが何十人、家に来たか分からないけれど、ズバリと言いあてたのはあなたが初めてだ」

　というのです。私のほうでヘエと思った。つぎに、白っぽい大型の壺を出してきました。

　「いいんだけれど、どうも口のところがおかしい」というと、彼、ますますおどろいたていで、「するどいですな。あとでつけたものです。これはうれしい」とすっかり感激し、ありったけの秘蔵の品を持ちだしてしまいました。えらいことになったと思った。しようがないからなにか言うと、それがいちいち当たってしまうらしいのです。だが私にはおもしろくもへったくれもない。さらにごそごそと戸棚をさぐっている小林秀雄のやせた後姿を見ながら、なにか、気の毒なような、もの悲しい気分だったのをおぼえています。

　美がふんだんにあるというのに、こちらは退屈し、絶望している。

　しかし、（５）美に絶望し退屈している者こそほんとうの芸術家なんだけれど。

（岡本太郎『日本の伝統』〈昭和三十一年〉より。一部省略）

注（＊）

　コーリンとか、タンニュー、トーハク＝尾形光琳、狩野探幽、長谷川等伯。桃山時代～江戸時代中期に活躍した画家。

　古橋＝古橋広之進。第二次世界大戦後、自由形の世界記録を次々と打ち立てた水泳選手。

　三鷹事件、下山事件＝いずれも昭和二十四年に国鉄（現ＪＲ）で起こった事件。

　大仏殿＝大仏を安置した殿堂。ここは奈良東大寺の大仏殿。

　ペダンティック＝物知りぶったさま。

　方丈＝禅宗寺院で、住職の居室を言う。

　むきつけな＝無遠慮なさま。

　小林秀雄＝文芸評論家（一九〇二～一九八三）。古美術収集家としても知られた。

問１　傍線部（１）はどういうことか、説明せよ。

問２　傍線部（２）はどういうことか、説明せよ。

問３　傍線部（３）のように筆者が言うのはなぜか、説明せよ。

問４　傍線部（４）はどういうことか、説明せよ。

◎ 問５　傍線部（５）について、「ほんとうの芸術家」とはどういうものか、本文全体を踏まえて説明せよ。

【解答と採点基準】

問１　Ａ今日の若い世代は Ｂ西洋の芸術については多少の知識があるものの、Ｃ自らのルーツとも言える日本の古典芸術には無関心であり、Ｄ伝統継承が危ぶまれること。

Ｃがなければ全体０。

Ａ＝２〔「現代の日本の若者」という意味であれば同意可。〕

Ｂ＝２〔「ダ・ヴィンチ」など固有名詞のみの場合は０。〕

Ｃ＝３〔「コーリン」など固有名詞のみの場合は０。〕

Ｄ＝３〔「忘却される」「継承されるかどうかが不透明である」などの同意表現は可。〕

問２　Ａ伝統主義者たちはＢ伝統的芸術の喪失をただ嘆くのではなく、Ｃ戦争と敗北による断絶を契機として Ｄ自分たちが新たな芸術をつくり、それをＥ伝統へと昇華していくという気魄をＦ若い世代に示すべきだということ。

ＤもしくはＥがなければ全体０。

Ａ＝２〔「教養の低下を嘆く人々」などでも可。〕／Ｂ＝１

Ｃ＝２〔「断絶」もしくは「空白」「空虚」を逆に活かすという内容であれば可。〕

Ｄ＝１〔「優れたもの、新しいものをつくる」という内容であれば可。〕

Ｅ＝３〔「伝統とする」と、「強い意志」「気魄」などの内容があれば可。〕

Ｆ＝１〔Ｃ～Ｅを見てもらう対象が書けていれば可。〕

問３　Ａ日本の間違った伝統意識を覆すという目的のためにさまざまな庭園を見て回るうちに、Ｂ観念的に対象を見るべきとするＣ伝統意識に影響され、Ｄ目が曇ってしまっていたから。

Ｃ・Ｄがなければ全体０。

Ａ＝２〔「日本の間違った伝統意識を覆す」という目的が書けていれば可。〕

Ｂ＝３〔「観念的」があれば可。「神妙」「集中」などは減点２。〕

Ｃ＝２〔「敵」が示している「日本の伝統意識」に言及していれば可。〕

Ｄ＝３〔「現在筆者の状況はＡではない」という内容が示されていれば可（「伝統にわれている」「抜け出せていない」など）。〕

問４　Ａ権威や物々しい伝統的価値にとらわれた芸術観が失われたのち、Ｂ予断を含まない純粋な視点で対象に臨みながら、Ｃなお見る側の心に直接訴えかけてくる迫力こそ本当の芸術の力であり、Ｄ伝統たりえるものであるということ。

Ｂ・Ｃがなければ全体０。

Ａ＝３〔「文化的に根こぎにされてしまった」のように、時代背景に言及しつつも「権威あるいは伝統の喪失」に言及できていないものは減点２。〕

Ｂ＝３〔「新しい視点」は０。「平気でむぞうさ」の場合は減点２。「純粋」「即物的」などは可。〕

Ｃ＝３〔「打ってくるもの」とそのまま抜き出した場合は減点２。「人々をきつけ感動させる力」「心に訴えかけるもの」「迫力」など適切に言い換えていれば可。〕／Ｄ＝１

問５　Ａ権威や観念にとらわれた伝統主義の美に背を向け、Ｂ対象について予断や気負いを捨てて純粋に向き合うことを通じて、Ｃ芸術が失われたり価値を疑われたりしている時代状況を意に介さずにＤ新たな美の価値を創造し、そのことによって伝統を更新し続けるもの。

Ａ・Ｄがなければ全体０。

Ａ＝３〔「権威・観念によって美を判断する」ことをやめるという内容であれば可。〕

Ｂ＝２〔「即物的に」「純粋な目で」などの表現であれば可。「新しい目線で」のように具体性に欠けるものは０。〕

Ｃ＝１〔教養の低下が嘆かれる現代の時代状況についての「態度」が書けていれば可。〕

Ｄ＝４〔Ａ・Ｂによって「新たな美の価値を創造」し、それが「伝統の更新」につながることを指摘していれば可。語尾が「人」を示す言葉でない場合は減点１。〕